

論 文

術後硬膜外チュービングにおける 褥創発生と危険因子の検討

福武 広美・福田ルリ子・大谷 則子・坂本 和美
松田 妙子・水上由美枝・橋本 安世・吉谷 智恵
(金沢市立病院)

Study on risk factors related to pressure sores
on post-operative epidural tubing

Hiromi Fukutake, Ruriko Fukuda, Noriko Otani,
Kazumi Sakamoto, Taeko Matsuda, Yumie Mizukami,
Yasuyo Hashimoto and Tie Yoshitani
Kanazawa City Hospital

要 旨

この研究は、術後の硬膜外チュービングの褥創発生の危険性を確認し、その状況下での褥創発生因子を見だし、よりよい褥創予防ケアを考えていくために行った。術後、硬膜外チュービングをした患者について、褥創発生群と非発生群にわけ、褥創発生因子21因子について調査した。その結果、以下の結果を得た。

1. 術後硬膜外チュービングをする患者は褥創発生の危険は高く、特に、術前の血清総蛋白量が低い患者、及び、男性では術後にヘモグロビン濃度が低い患者、女性では、術前にヘモグロビン濃度が低い患者に、特別な褥創予防ケアが必要である。